



# News Letter ☆ PIANC-Japan

## 国際航路協会 日本部会ニュース

December 2012 (Vol.12-2) The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

---

### PIANC 臨時総会（2012.10.19：PIANC 本部）についての報告

PIANC-Japan 会長

須野原 豊

10月19日の臨時総会に出席しましたので報告します。日本部会からは、田邊近畿地方整備局副局長、ブラッセルに駐在している成川さん並びに私、須野原が出席しました。

総会では会議に先立ち、去る7月7日にご逝去された御巫清泰 PIANC 元副会長のご冥福を祈り、出席者による1分間の黙祷が行われました。

総会での主な議題は以下事項です。

#### 1. 副会長選任等

- ・任期途中で副会長を辞任したインドのスリバスタバ氏の後任としてノルウェイのトール・ランデスタット氏を選出。任期はスリバスタバ氏の残り期間の2014年5月まで。これにより、2013年5月に任期切れとなるスペインのトルエバ氏の後の副会長は、地域枠の縛りがなくなりどの地域からの立候補も可能。
- ・PTGCCのChairmanは米国のDr. トッド氏を選任。

#### 2. 会則の変更

World with Nature Award を設けるため、Part20として、92条、93条を追加。この賞は4年毎に選定され、第1回の受賞プロジェクトは2014年にサンフランシスコで開催されるCongressで表彰。日本部会としても積極的に案件を出していく必要あり。

#### 3. 会員の拡大等

- ・PIANC Strategic Plan (2010-21014) に関連して、コロンビアが Qualifying member として今年から入会との報告。また、インドネシアの入会に向けた日本部会の取り組み状況も紹介され、日本部会の積極的な活動を関係者に広める機会になった。
- ・MarCom の来年9月の会議は東日本大震災からの復旧・復興状況を理解してもらうため、日本で開催。
- ・YPCOM について日本部会からも積極的に参加して欲しい旨の要請あり。中国においてもYPの活動が始まったとの報告。来年はパナマ運河の建設現場視察を企画中とのこと。

#### 4. 今後の各種イベントの開催地等

- ・2016年のブラジルでのCOPEDECについてブラジル側の対応が積極的でないため、12月に本部がブラジル側と話し合い、場合によっては開催地の変更も考えなければならない。
- ・パナマ部会より第3閘門開通後の2018年にAGAを開催したいとの申し出あり。

#### 5. その他

- ・会員サービスの向上のためPIANCのWebsiteをより利用しやすいように改善する。



総会の様子



会長副会長

(右から3人目が新副会長のランデスタット氏)

---

## CoCom 会議出席報告

CoCom 委員

大内 久夫

日建工学 (株)

I. 日時 : 2012 年 10 月 17 日 13 時 30 ~

16 時 45 分

II. 場所 : PIANC 本部事務局 01M42 会議室

### III. 出席者 :

委員 : Akula Rao (共同委員長 Edward は欠席)

委員 : Hartmut Bruhl, Jose Luis Monso de Prat, Ronald Stive, Freddy Wens, Jean-Marc Deplaix, Ranjit Galappatti, Vaido Kraav, Young-Min Oh, 大内久夫, Dewolf Peter

### IV. 会議概要

#### 1. 委員長挨拶 (Akula Rao)

その後、初参加者が 2 名いることから、各自自己紹介を行った。

#### 2. 前回議事録の承認

事前配布された議事録が一部修正の上、

承認された。(新規勧誘対象国に、マレーシアとバングラディシュを加える点が修正された。)

#### 3. 会員勧誘対象国に関する討議

新規会員対象国 (Target Countries) の表が、ExCom で決定され、AGA で議論されたことの紹介があった後、担当委員から勧誘状況について報告があった。

- Stive : リビア、モロッコに働きかけを行っている。リビアは経済状況が改善後に具体的な動きとなる見込み。

ギリシャは経済状況の安定が前提となる。

- Prat : チリへの勧誘を継続中
- Wens : ベトナムの QM 継続については、国内各機関の調整が必要。

来月ベトナムを訪問し、調整を行う予定。

ラオス、カンボジアも継続を検討中。タイで、気候変動のセミナーを開催

した。

- Bruhl : コンゴの機関と協議をしており、PIANC 参加に関心を有している。
- Rao : バングラディッシュへの働きかけを行っている。
- 大内 : インドネシアで進展があった。DGST が参加の方針。Caude 会長からの書簡を元に、現在、財政部局に対して予算を要求中。  
フィリピンは中断中。新専門家の派遣を待って再会予定。  
中国については、現在政府間の折衝が難しい状況。
- その他、コロンビアが入会に関心を有している。
- Rao が、PIANC 参加のメリットを記載した資料を作成しており、それを CoCom メンバーに配布してくれることとなった。

#### 4. 小委員会報告

##### AS-1 研修と教育

WG1 小委員会委員長の Stive から、研修のデータベースについて、枠組みが完成し、インターネットでアクセスできるようになっているが、全くアクセスが無い旨報告があり、各国内委員会に利用を働きかけてほしいとの要請があった。

その後、利用形態についての質疑、回答があった。

WG2 小委員会（海岸線安定の最適手法）については、主要な 1 章が未完成であり、その担当に Stive が督促してみる事となった。

##### AS-2 地域グループ活動

特に議論なし

##### AS-3 IOC PIANC-COPEDEC

Wens より、次回 PIANC-COPEDEC は、

ブラジルで開催されるが、資金不足であり、これまで支援を行っていない国に支援をお願いしたい旨の説明があった。(特に、日本に期待したいとの発言もあった。)

必要想定額は、最大で 15 万 US\$。うち 3 万 US\$ が開催国支援で、12 万 US\$ が参加者への旅費等の補助であり、資金需要が発生するのは、2015 - 2016 年であるとのこと。

PIANC-COPEDEC の IOC (国際組織委員会) 及び論文選定委員会のメンバー変更案 (合計 3 名) が提案され承認された。(欠席の共同議長 Edward へはメールで通報する。)

論文の評価を 5 段階から 10 段階に変更することについても議論が交わされた。

#### 5. 前回委員会以降の活動についてのレビュー

項目 7 で併せて実施

#### 6. 「自然と共に働く」について

Bruth が本部と協議する。

#### 7. 新/旧業務

配布資料に基づき、項目ごとに進行状況の確認を行った。

アルゼンチン国内委員会が、Mrs. Cecilia を Young Professional として CoCom メンバーとしたい旨の報告があり、出席者はこの指名を歓迎した。

#### 8. 次回委員会の場所と日時

Excom の前日に PIANC 本部で開催の方向で調整する。

5 月の AGA の際に、非公式あるいは公式の CoCom の開催を検討する。

## 海港委員会 (MarCom, Maritime Navigation Commission) の報告

MarCom 委員

(社) 日本港湾協会

港湾政策研究所所長代理 兼 企画部長

樋口嘉章

### はじめに

2012年9月20～21日にドイツのヴィルヘルムス・ハーフェンで開催された MarCom (海港委員会) について紹介する。(基本的には、MarCom Minutes の日本語訳)

### 1. MarCom メンバーの交代

2012年9月会合の MarCom 出席メンバーは別添-1の通りである。

○新たに、コロンビアの代表として Mr. Gerald Castano と Mr. Andres Aponte が、韓国の代表として Mr. Taek Hee Han がメンバーに加わった。

○スウェーデンの K. Larsson が 2013年にリタイアするため、後任となるストックホルム港の Mr. M. Sandell を紹介した。

○T. Lundestad が副会長に就任することに伴って、MarCom から抜けることとなった。

### 2. 前回会議の議事とアクション・リスト

前回会議で議論されたアクションについては下記の通り、

①国の代表が会議に参加しない状況 (バナワン氏) については、繰り返される問題ではあるが、ExCom と定期的に議論されるべきである。

②PIANC 戦略計画については、MarCom としては現在のロードマップの実行に努めるとともに、新しいインプットがあり次第対応していく。(2012年10月 ExCom)

③WG47 (防波堤の形式を選ぶにあたって

の基準) (後述)

④WG145 (接岸速度と防舷材設計) 米国メンバーが未だはっきりしていない問題については、米国からの WG メンバーについてはオーストラリアに移ったが、引き続き WG には参加していく。

⑤WG146 については、ExCom において、正式にキャンセルされた。

⑥EG160 (港湾構造物の設計基準・ガイドライン概観) への米英からのメンバー参加について、米については Tom Wakeman が参加することとなった。英についてはメンバーの参加は出来ないため、代わりに英国 MarCom の代表に、インテリムレポートとファイナルレポートを検討のため送ることが提案された。

⑦ウォーターディクショナリー スウェーデン語とフィンランド語への翻訳が進められている。

⑧MarCom のウェブサイトについては、いくつかの文書はウェブサイトに掲載されているが、MarCom の会議の準備に役立つよう運用していけるよう、本部とセクレタリーでさらに改善を図る。

⑨年報のための原稿を、1月半ばまでには準備して2月の ExCom に提出する。

⑩2012年11月9日にイタリアのフローレンスで開催される「第1回欧州海上輸送規制フォーラム」を P. Hunter が紹介した。

⑪WG164 (増深による港湾ターミナルのグレードアップ) については、5月に TOR

- が ExCom に提出され、少し修正したうえで承認された。本部から各国セクションにメンバー募集が案内された。
- ⑫ WG165 (コンテナターミナル舗装の設計と維持) については TOR が ExCom に承認された。
- ⑬ RoRo 港湾の TOR のドラフトが準備された。
- ⑭ 中小型を含む LNG ターミナルの海洋部分に関する設計 WG の TOR のドラフトが準備された。
- ⑮ セクレタリーから WG に送るレターの雛形を更新することは一部なされた。
- ⑯ WG48 (バウ・スラスターに関する港湾建設ガイドライン) のドラフトファイナルレポートは間もなく MarCom のメンバーに配られる。
- ⑰ WG51 (水注入浚渫) のドラフトファイナルレポートは7月に MarCom のセクレタリーに送られ、MarCom メンバーに送られる必要がある。
- ⑱ WG52 (コンテナ船の積み込み(降ろし)基準) レポートは本部で出版のために校正作業中である。
- ⑲ WG54 (港湾への安全なアクセス最適化のための海象・気象情報の利用) レポートは本部で出版のために校正作業中である。
- ⑳ WG55 (オイル・ガスタンカーの接岸作業の安全性) レポートは本部で出版のため校正作業中である。
- ㉑ WG152 (クルーズ・ターミナルのガイドライン) については、議長の交代の候補者が1名いる。
- ㉒ WG158 (既存港湾のマスタープラン) は各国から WG への参加候補者が提案された。
- ㉓ WG159 (海港における再生可能エネルギー) は各国から WG への参加候補者が提案された。
- ㉔ WG164 (浚渫増深によるターミナルのグレードアップ) の TOR についてのコメント完了
- ㉕ WG165 (コンテナターミナルの舗装の設計と維持) の TOR についてのコメント完了
- ㉖ 「内水面航行船の海港への直接寄港」についてのレポートについては G. Caude が本部へ送付すべきドラフトを用意している。MarCom で間もなく議論されるだろう。
- ㉗ RecCom の WG147 (プレジャーボートの航行とのよりよい統合ガイドライン) に対しては M. Ferrante が、MarCom を代表する。
- ㉘ PIANC マガジンへの投稿の締め切りを周知することと、に年4~5回技術的な記事を提供することについては、次回 MarCom 会議まで心にとめておく。

### 3. ExCom と AGA に関するお知らせ

- ExCom は PIANC マリーナ設計コースに合意した。RecCom の議長が講師のボランティアを募った。
- ドイツの Hochtief が新たにプラチナ・パートナーとなった。
- 須野原豊氏が PIANC 副会長となった。
- YPCom の新しい議長にアルゼンチンの Pablo Arecco 氏が就いた。
- MarCom の WG に関しては、
- ExCom は 2012 年 2 月に WG162 の TOR を承認した。
  - ExCom は 2012 年 5 月に WG164 と WG165 の TOR を承認した。
  - IAPH が WG164 に参加するよう招かれた。(まだ返答を得ていないので、議長から案内を再送する。)
  - MarCom の議長がコンテナ舗装に関して PIARC に接触したが、彼らは何ら勧
-

告(技術的指針)を有していなかった。

－WG161(沖合の風力発電施設と海上航行の相互作用)に関して IALA と連絡を取ったが、現時点で返答を得ていない。

－PIANC は MarCom から 3 編、RecCom から 1 編、計 4 編のレポートを出版する。

○Working with nature 賞について、Luc(白)と Arjan が MarCom を代表する。第 1 回の表彰をサンフランシスコでの総会で予定している。

○それ以外のヴァレンシアでの AGA 関連のニュース

－AGA 宣言「海上交通においてマルチ・モーダルの統合を進めること」  
(to boost multimodal integration in maritime transport)

－最優秀セクションに米国が選ばれた。  
等

#### 4. WG の状況

##### 4. 1 進行中の WG

○WG47 (防波堤の形式を選ぶにあたっての基準)

WG 議長からの最新の話によると、垂直防波堤についてのいくつかのシミュレーションがペンディングとなっている。議長によるとメンバー間での効果的な協力が少し欠けている。ピーター・ハンターが引き続きフォローアップして、今年の終わりまでのドラフトファイナルレポート配布を目指す。

○WG48 (バウ・スラスターに関する港湾建設ガイドライン)

ドラフトレポートが MarCom メンバー間で配布できる段階となっている。

○WG49 (航路の垂直・水平寸法)

すべての章はすでに存在しており、最終の調整中。ドラフトファイナルレポートが今年の終わりまでにウェブサイト

に載せられるので、MarCom で 1 月に議論される。

○WG51 (水注入浚渫)

Smits 氏が 8 月にレポートの現状を問い合わせた。Sekretary が (Luc, Arjan とともに) チェックして、MarCom メンバーに配布予定。サン・ディエゴでのイベントの際発表の見込み。

○WG53A (港湾における津波災害の緩和)

今回発表があり、最終レポートが次回 1 月の MarCom で配布される予定。

○WG135(中小港におけるコンテナターミナルの設計の原則)

ドラフトレポートが 2013 年 7 月までに準備される。

○WG144 (海洋浚渫のための土質・岩質の分類)

レポートは完成しており、1 月の MarCom 会議で発表される。IADC が報告書の印刷版をスポンサーする見込みとなっている。

○WG145 (接岸速度と防舷材設計)

現時点ではメンターからの報告はない。進行は緩やかだが、多くのデータが集まっている。Arjan 氏は WG からの質問(ひとつは大型船のサイズについて、もうひとつは 2002 年報告書の改訂について)を予期している。2013 年 1 月の MarCom で報告が議論されるべきである。

○WG152 (クルーズ・ターミナルのガイドライン)

議長は辞任した。(ただし、WG には引き続きメンバーとして留まっている。)そして新たなメンバーが米国から参画した。David Pino 氏が新たな議長となる。Rafael が Dan に替わってこの WG の新たなメンターとなる。

○WG153(海洋オイルターミナルの設計に関する勧告)

MarCom はプログレスレポートを受け

取った。9月にサンフランシスコで会議が開かれた。グループは活発で多くのメンバーがいる。最終ドラフトは2014年2月になると見込まれるが、MarComでの検討が速くできるように2013年9月に予備段階の発表が行われるべきである。

○WG158 (港湾の再開発のマスタープラン)

一番最近の(第3回)会議はロッテルダムで開催され、次回は11月にブリュッセルで予定されている。2013年の夏にはドラフトレポートを作り、同年9月のMarComに発表する予定である。

○WG159(海港における再生可能エネルギー)

10月18日にブリュッセルでキックオフ・ミーティングが開催される予定。

○EG160 (港湾構造物の設計基準・ガイドライン概観) (もと WG50)

メンバーは米国から追加参加があった。前回の会議は半分しか出席がなかったが、いくらかは進展した。英国セクションがインテリムおよびドラフト・ファイナル・レポートを検討する。

#### 4. 2 WGの立ち上げ

○WG161 沖合の風力発電施設と船舶航行の相互作用

8名のメンバーが6カ国から参加した。(ベルギー、ドイツ、オランダ、スペイン、英国、米国)誰も議長に立候補しなかった。MarComの議長からオランダ代表にこのWGの議長をお願いできないか連絡する。本部に確認を取った上でセクレタリーからすべてのMarComメンバーにメンバーリストを送付する。

○WG162(海洋コンクリート構造の耐久性と供用期間の増加に関する勧告)

12名のメンバーが7カ国から参加した。(フランス、ドイツ、オランダ、ノルウェイ、スペイン、英国、米国)WGの議長

にはノルウェイのOdd Glerov氏が就き、Torre Lundestadがノルウェイの新しいMarComメンバーが決まるまでメンターを務める。

○WG164(浚渫増深によるターミナルのグレードアップ)

11名のメンバーが7カ国から参加した。(アルゼンチン、ベルギー、フランス、ドイツ、オランダ、RSA、米国)StefanがRichter氏に議長への就任を打診して、結果をMarCom議長とセクレタリーに知らせる。

○WG165(コンテナターミナルの舗装の設計と維持)

9名のメンバーが7カ国から参加した。(アルゼンチン、ベルギー、フランス、ドイツ、オランダ、ポルトガル、米国)Peterが英国からの参加について確認する。この確認後、MarCom議長が議長を指名する。

○一般的事項

セクレタリーは定期的に本部に新しいメンバーの異動状況を確認する。

#### 4. 3 出版の予定

○WG52 (コンテナ船の積み込み(降ろし)基準)、WG54 (港湾への安全なアクセス最適化のための海象・気象情報の利用)とWG55 (オイル・ガスタンカーの接岸作業の安全性)については本部で出版の準備をしている段階である。

#### 4. 4 WGに関する一般的事項

○WGからは、レポート、WGレポートの公式な発表、PIANCマガジンへの要旨の3点が必要とされる。

○WGの正式な発表は普及を促進するものであり、これらはPIANCのメンバーによって国内的またはそれ以外のPIANCのイ

ヴェントで使うことができる。

- 提出される様式が異なっていると、統一するのに時間がかかることから、すべてのレポートが従うことができる雛形が有用と考えられる。Peter が 9 月末までに WG158 レポートの雛形を配布する。MarCom 議長が 10 月の ExCom の議題とする。
- ナショナルセクションはメンバーを出している WG で進んでいる作業に関してより多くの情報が必要である。
- MarCom 議長は MarCom の検討スケジュールに関して全般的体系を準備した。MarCom セクレタリーの WG への手紙はこの体系を考慮するとともに、コピーを WG メンバーと MarCom メンバーに送付する。
- MarCom メンバーからの意見については MarCom セクレタリーが取りまとめ、それをメンターが整理して議長に伝えることとする。
- WG はもっと進行状況の情報を PIANC MarCom を活用すべきである。PIANC の MarCom のウェブサイトも次回会合までに改訂が必要である。(セクレタリーと本部) WG 最終報告書の検討に際しては、ウェブサイトにアップされて、3~4 週間で MarCom メンバーからのフィードバックが求められるのが望ましい。

## 5. WG からの発表

- WG53 のアペンディックス(港湾における津波災害の緩和)について、港湾空港技術研究所の富田孝史上席研究官から、報告を行った。来年 1 月の会議で最終版のドラフト提出の予定となった。(なお、本レポートについては当初、WG53 のアペンディックスとして計画されていたが、10 月の ExCom において、独立したレポートとしてはどうかとの示唆があり、日本

側で調整した結果、その方向で進めることで対応していくこととなった。)

- WG144 (海洋浚渫のための土質・岩質の分類) Luc より WG についての短い報告があった。最終報告書が会議直前に提出された。MarCom メンバーに配布して、コメントを求め、2013 年 1 月の MarCom で発表の予定。

## 6. 新しい WG (TOR のドラフト)

- バンカリング施設を含む中小 LNG ターミナルの設計  
WG は安全性とターミナル設計に焦点を当てる。(この方向で TOR を手直し) IAPH におけるこの分野での活動を確認。TOR を手直ししたうえで 2 月に ExCom にかける。
- Ro-Ro 船と Ro-Pax 船の複合ターミナルを含む Ro-Ro 港の設計  
Tore により 2 点小さな修正をしたものを 10 月に ExCom にかける。なお、タイトルについては、「Ro-Ro と Ro-Pax 船の複合ターミナルの設計」と修正された。

## 7. WG43 (港湾における埋没最小化) に関する PIANC への発表・討議の依頼

R. Kirby が 2013 年 1 月の MarCom において発表を行いたいと申し入れた。彼は WG43 レポートの勧告に関して、PIANC からの組織的な支持を求めているように思われる。議論の後、Peter Hunter が Kirby 氏に追加的な情報を提供するように求め、1 月に MarCom での発表が必要となるような関連する技術的な情報が新たに出されているのか、確認することとなった。

## 8. 準備されるべき将来の TOR

- 船舶航行に関するシミュレーション/モデリング技術についての TOR を Stefan



が Dominique と協力して起草する。

- Veikko が ExCom が勧めた現存するアイス・ナビゲーションに関するレポートを更新するかどうか判断するための情報を収集することとなった。
- 新しい WG が立ち上がり始めており、進行中の WG からの新たな情報もあることから、MarCom のトップ・テンのリストに関して、更新していく。ポート・ターミナルに関するシリーズの継続については WG158 からのインプットを待って対応する。

## 9. 他の委員会との共同

### 適合させた内陸水運船による海港へのアクセスに関する合同 WG

WG の議長である Geoffroy Caude は MarCom の議長に最終報告書は速やかに本部に提出されると知らせた。ファイルが非常に大きいため、MarCom のセクレタリーは Leen Weltens と連絡を取って、PIANC の MarCom のサイトに掲載できるか確認する。

### EnviCom

- ワーキング・ウィズ・ネイチャー

MarCom は EnviCom でこれらの新規構想について起草していることをよくは承知していなかった。この問題については 9 月 (?) の MarCom で話し合う。

- PTG 気候変動

既往の MarCom の刊行図書において、気候変動を考慮に入れる更新を行うタイミングの問題が再度議論された。結論は前回と同様で既存の刊行図書について更新は必要ないということであった。気候変動に関する知見はまだ十分ではなく、他の要素（例えば船や貨物取扱い機器）の場合でも前提と変わってきても刊行物を更新しては来っていない。新たな刊行図書については気候変動に言及すべきであるし、気候変動が改訂の動機となるかもしれな

い。MarCom はアイス・ナビゲーションに関する報告書をアップデートする便宜を分析している。

- WG150 (グリーン・ポーツ)

Ferrante 氏(欠席)がこの WG の MarCom の連絡係である。次回会議で話題とする。

- WG136 (持続可能な海洋航行)

MarCom の連絡係となっていたにもかかわらず、Hauser 氏にドラフト・レポートが送られていない。この WG は多くの MarCom 刊行図書(港湾における再生可能エネルギー)にとって有益なデータを供すると思われる。MarCom の議長は ExCom から要請を受けてファイナルレポートをレビューした。

### InCom

- WG140(内陸水理構造物の半確率論的設計コンセプト)

Kovarik 氏がこの WG のメンターである。Claus Kunz がよく進捗させており、MarCom の EG160 がスタートする前に、ほとんど終了する見込み。したがって、WG140 のメンバーが誰か EG160 に出席して、重複して作業することがないようにするべきである。Mr. Fernagu が連携を取る。

- WG155(閘門と閘門へのアプローチでの船舶挙動)

Peter Hunter が MarCom を代表する。

- WG156 (E ナビゲーション)

フィンランドからのメンバーが MarCom を代表する。

### RecCom

- RecCom WG147 (海洋レーション活動とのよりよい共存のためのガイドライン) への MarCom 代表の指名

この WG では Ferrante が MarCom を代表する。

## 10. MarCom の特別な活動

### ○地中海の日 MedDays (フランス、マルセイユ)

2013年5月22～24日に地中海の日が(フランス、イタリア、スペイン、ポルトガルの共同で)開催される。テクニカル・プログラムは物流、土地と港湾の計画、沿岸環境、気候変動、クリーン・エネルギー、ヨットとクルーズ活動の発展と港湾などとなる。登録はまだ始まっていないが、論文募集はまもなく始まる。(技術会議が立ち上げられた。)

### ○AGA2013

地中海の日が続いてマルセイユで開かれる。

### ○MarCom の 2012 年 10 月 ウクライナ (オデッサ) で開催される第 5 回 インターモーダルと SHIPPING 2012 への参加

MarCom を代表しては誰も参加しない。フランスが参加の可能性を検討する。

### ○ウォーター・ディクショナリー

H. j. Verhagen 氏がリエゾンを務める。

### ○PIANC マガジンへの短いレポート

PIANC 出版物とマガジンは技術的文章を集めるのに苦労している。MarCom 議長は WG のメンターに、より参加を促し、技術的イベントを周知したり、結果を発表するよう奨励する。MarCom としては、年に 4～5 編程度は短い技術的文章を出すことを提案したい。記事は最終広告の予告広告にもなり得る。MarCom セクレタリーが原稿の締切がいつかわかったら、その情報を周知すること。

### ○ウェブサイト

関係者限りのウェブサイトは次の会合の準備に役立てられる。ウェブサイトは文書の最終版が確定した時点でそれ以前の作業バージョンを消去する等、掃除する必要がある。公開されている頁につい

ては現在工事中であり、何か本部と共同で立ち上げる必要がある。ESPO はよい例である。

### ○イヤー・ブックへの貢献

次の MarCom 会合の前に 2011 年に終了した WG のハイライトを掲載して発行される予定である。MarCom メンバーはセクレタリーと議長宛原稿とよい写真を送りたい。

## 11. MarCom 内でのソーシャルネットワークの活用の可能性

本件については議長から短いプレゼンがあり、次回の MarCom で議論することとなった。

## 12. MarCom 戦略計画についての予備的議論

議長の発表の後、次回の MarCom で議論することとなった。一つの質問は MarCom のメンバーは現在エンジニアだけになっているが、それ以外のバックグラウンドの人(例えば、学系)も必要ではないか?

## 13. 次回以降の会合

○次回の MarCom は 1 月 29～30 日にブリュッセル(白)で開催される予定。その次は 2013 年 9 月 11～12 日に仙台(日)で開催されることとなった。(なお、日本セクションでは 9 月 13 日に東京で MarCom 議長エステバン氏ほかを招いて、講演会を開催する予定)

○2014 年は 1 月ブリュッセル(白)、5 月サン・フランシスコ(米)での総会に合わせて、9 月おそらくヴェニス(伊)にて開催。

## 14. 視察

○新たに供用開始されることとなったヴィルヘルムス・ハーフェンのヤード・ヴェザー・ポートの視察を行った。(別添-2

「港湾」11月号記事参照)

### おわりに

今回の会議開催場所となったヴィルヘルムス・ハーフェンは交通の便もあまりよくなく、それほど人口が多い街でもないのに、あまり期待しないで行ったが、海上となったコロンビア・ホテルはスタッフの感じが

よく、内装もよく、食事もおいしく、とても快適な滞在となった。ホスト役の S. Hauser に感謝するとともに、次回の仙台会議のホスト役として、責任重大と感じた。来年9月の仙台開催にむけて関係各位のご協力をお願いする次第です。

((2012/12/12 記)

### 別添ー1 2012年9月20～21日 MarCom (海港委員会) メンバー

#### 出席メンバー

F. Esteban	Chairman (Spain)
D. Etienne	France (Secretary)
E. D Allen	USA
S. Hauser	Germany
Y. Higuchi	Japan
P. Hunter	UK
T. Lundestad	Norway
R. Escutia	Spain
A. van der Weck	The Netherland
L. Van Damme	Belgium
F. M. J. Van de Laar	The Netherland (IAPH)
K. Karlsson	Sweden
M. Sandell	Sweden
B. Poiyaamozhi	India
V. Saukkonen	Finland
K. Andersson-Berlin	Finland (observer YP)

#### 欠席メンバー

A. Banawan	Egypt
V. Tanal	USA (Alt. member)
S. Cork	UK (Alt. member)
H. Verhaeghe	Belgium (YP)
A. Ferrante	Italy
H.F.Burcharth	Denmark

## EnviCom 会議報告

EnviCom 委員

港湾空港技術研究所 中村由行

### 1. 会議日程

第 35 回会合：2011 年 9 月 22～23 日：ロッテルダム (MAASVLAKTE2 の視察含む)

第 36 回会合：2012 年 1 月 31 日 (火) ～ 2 月 1 日 (水) @ブリュッセル PIANC 本部

第 37 回会合：2012 年 10 月 4～5 日：コブレンツ (ドイツ、モーゼル川魚道視察含む)

### 2. 第 36 回及び 37 回会合の主要な議事

#### (1) 議題の確認

#### (2) 委員の交代の確認

- ・フィンランド及びインドからの新メンバーの紹介。
- ・ほかにオーストラリア・コロンビア・韓国から新メンバー加入予定
- ・委員長 (H. Koethe) 及び副委員長 (E. Russo) の再任の承認

#### (3) 前回議事録、アクションポイントの確認

#### (4) 各 WG や TG の活動状況確認

- a) “Working with Nature” (自然との共生) の取り組み
- ・PIANC 全体の環境への取組のスタンスを示す position paper
- ・“Working with Nature” の関連した取り組みの紹介との差別化  
オランダ EcoShape での “Building with Nature”  
米国での “Engineering with Nature” の取り組み紹介 (米国委員から)
- ・中村が日本語訳のほか、中国語・韓

国語訳のコーディネーター担当

中国語・韓国語訳を含め、PIANC ホームページに update

- ・“Working with Nature Award” への取り組み (詳細は別紙参照)

ExCom での承認に向けた作業と今後の予定確認

候補となるケーススタディーの Web でのデータベース化

Corresponding member として国総研古川新技術研究官が参加

- b) 気候変動 (地球温暖化) に関するパーマネントタスクグループ PTG の取組み

・国総研鈴木沿岸海洋・防災研究部長が委員として参加

・2011 年 1 月 31 日・2 月 1 日に kickoff meeting がブリュッセルで開催

目標である報告書の概要等を議論

- ・今後は、Teleconference のほか、AGA や EnviCom 会合にあわせて会合予定

- c) WG 活動報告

・WG163：航路と魚介類生息場の WG について、長らく休止状態であったが、新たな Chairperson として Jan Hoover 氏 (ERDC) が決まり、新たな TOR 作成に向けて準備中

・WG136：持続可能な海運に関する WG。日本からは不参加。

最終レポート査読中

・WG143：環境影響評価にかかわる WG (国総研岡田室長が委員)

メンバーによる活発な情報交換活動が既に開始されている。レポート作成中。

- WG150 : EcoPort に関連した WG の開始

元港空研白石氏が委員として参加、今後の継続参加を要確認。

アジア地区での取り組み紹介が期待されている。最終レポート作成中。

- WG157 : サンゴ礁まわりの浚渫や港湾建設

日本人メンバー募集中

- その他パートナーWG (他の委員会付属の WG への参加)

河港委員会 InCom の WG128 を中村が担当

Chairperson が病気のため、活動が中断中 (現在、新たな委員長を選任中)

#### (5)国際的・地域的なセクターへの情報交換

- European Commission WG on Rivers について、積極的な関与を確認

- LONDON 条約対応

浚渫土砂評価のガイドラインについて、EnviCom 委員長から積極的にガイドライン改訂に関してコメントすべきとの発言があった。5月に韓国で開催

予定のロンドン条約科学者会合にて、EnviCom からの出席者 (米国委員) に対して発言を要請

- OSPAR 条約に関する取り組みの報告

OSPAR の浚渫土砂ガイドラインの改訂へのコミットメント

#### (6)他の関連した他協会等の取組の紹介と協力関係の構築

ASCE、CEDA などの会議や取り組みの紹介

#### (7)PIANC ExCom 及び他の常設委員会や会議 予定の報告

#### (8)PIANC 内外への環境委員会の取り組みの 広報

- EnviCom の website の準備状況報告

- News letter 電子版の発行、PIANC 年鑑 yearbook

#### (9)関連した他協会等の取組の紹介と協力 関係の構築

- European Commission WG on Rivers について、積極的な関与を確認

#### (10)次回以降の開催地・開催時期等の決定

- 2012年1月29日(火)~30日(水):ブリュッセル

- 2013年9月6日(金)~7日(土):シドニー (オーストラリア)

## Working with Nature Award について

EnviCom 日本委員 港湾空港技術研究所 中村由行

### 1. Working with Nature とは？

PIANC 全体の環境への取組のスタンスを示す position paper

EnviCom が原案を作成し、ExCom で承認。2010 年 PIANC\_Japan 総会でも内容紹介。

2011 年に改訂し、その日本語訳は中村が担当 (PIANC ホームページに掲載)

[www.pianc.org/workingwithnature.php](http://www.pianc.org/workingwithnature.php)

主要な考え方

- 1) プロジェクト計画段階からの対象水域の環境特性の把握
- 2) プロジェクト関係機関・団体の計画段階からの参画による win-win な解決
- 3) プロジェクトの目的の達成と環境保全の両立を目指した計画の推進

### 2. Award のねらいと手順

Working with Nature の考え方を活かした港湾関連のインフラ整備プロジェクト等に対してそれを顕彰し、Working with Nature の理念の普及を図る。

手順：PIANC WwN データベースへのプロジェクト応募 (内部のみ閲覧)

→審査委員会による審議 (6 ヶ月おき? にメール審議)

→WwN の理念に沿うプロジェクトの認証 Label of recognition

→WwN のオープンサイトへの掲載

→認証されたプロジェクトの中から、2 年または 4 年おきに Award (3 件程度) 選定

→Award winner による PIANC Congress での発表

### 3. 準備状況 (2012 年 5 月 21 日開催の ExCom での承認時点)

Working with Nature の corresponding group の結成 (Chair: J. Brook)

候補になりそうなケーススタディーの収集とデータベースの作成

Awarding の準備

審査委員会メンバーの選任 Jury member

各常設委員会 EnviCom、MarCom、InCom、RecCom から選任 (現在 6 人態勢)

Label of recognition 認証制度 (認証ロゴ)

今後のスケジュールの案

ExCom での認証制度の確定 (~9/15 頃)、関連機関への周知・広告

次期 EnviCom での審議 (10/4)

### 4. 現在データベース用に収集したプロジェクト

Flood Spillway Rees, River Rhine, Germany

The Broads, Norfolk & Suffolk, UK

Thorsminde Harbour, West coast of Denmark

Lengthening of "Grand Canal du Havre" adjacent to a nature reserve, Le Havre Port, France

## YPCom の活動報告

YPCom 委員

港湾空港技術研究所 岩波 光保

### 1. 日本からのメンバー

岩波光保 (港湾空港技術研究所 構造研究領域長)

### 2. 委員会名称

Young Professional Commission (YPCom)

### 3. 活動期間

2006年9月～

### 4. これまでの経緯

- ・2003年12月に、Young Professional Implementation Group が組織された (日本からは、港空研の下迫室長が参画)。
- ・若手技術者・研究者 (YP、25～40歳 (not fixed!)) の相互連携、若手会員数の増加、総会への若手参加者数の増加 (YP-Paper Award の贈呈)、広報活動、見学会の開催などを目的としている。
- ・年に2回の全体会合を開き、今後の活動方針を策定し、2006年5月のAGAにてYPComとして承認された。

### 5. 議長

Pablo Arecco

(Montgomery Watson Harza, Argentina)

### 6. 参加国

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、フィンランド、フランス、ドイツ、インド、イラン、イタリア、日本、韓国、オランダ、ノルウェイ、ポルトガル、南アフリカ、スペイン、イギリス、イギリス、アメリカ

### 7. 今年度の会議開催実績・予定

- ・2012年10月 (第13回) ブリュッセル (欠席)
- ・2013年2月 (第14回) 場所未定 (Skypeでの開催も検討中)

※メール審議には積極的に関与している。

### 8. 我が国の取組み状況

- ・各国で National Section を立ち上げて、独自に活動を展開していることから、我が国でも Japanese Section を立ち上げ、以下の活動を実施したいと考えている。
  - －広報活動 (PIANC の宣伝、会員数の増強)
  - －会合 (報告会、研究会、懇親会)
  - －見学会

以上

## PIANC WG145(船舶の接岸速度及び防舷材の設計)、

### 第5回 WG 開催報告

共同委員長；上田 茂  
 (株)いであ

1. PIANCWG145 (船舶の接岸速度及び防舷材の設計) の第五回 WG が 2012 年 11 月 14～15 日に Houston で開催された。第一日目は 1300～1730、二日目は 0900～1600 に議事を行った。参加者は 15 名 (オブザーバー 1 名を含む) で、日本 (3 名)、イギリス (2 名)、ドイツ (2 名)、

ベルギー (1 名)、オランダ (3 名)、アメリカ (1 名)、スペイン (1 名)、フランス (1 名) オブザーバー (アメリカ；1 名) であった。ノルウェイは欠席であった。表はメンバー構成及び出席状況である。

第5回	政府 港湾 管理者	学識経験者 大学 等	防舷材メー カ ー コ ン サ ル タ ト	建設コンサル タ ト 、 建設会社	
日本		<i>M</i>	<i>M, YP</i>		3(3)
イギリス			<i>M, M(AL), CR</i>		3(2)
フランス			<i>AL</i>	<i>M</i>	2(1)
オーストラリア				<i>M, CR</i>	2(0)
アメリカ				<i>YP, M(AL)</i>	2(1)
ドイツ	<i>M,</i>			<i>M, YP</i>	3(2)
ベルギー	<i>YP</i>			<i>M</i>	2(1)
オランダ	<i>YP, MarCom</i>		<i>AL</i>	<i>M</i>	4(3)
ノルウェー		<i>M</i>		<i>M</i>	2(0)
スペイン				<i>M, AL</i>	2(1)
	4(3)	2(1)	7(5)	12(5)	25(14)
M:メンバー, YP:ヤングプロフェッショナル, CR:通信メンバー, AL:代理メンバー					
( )出席者; 斜体					

### 2. 議事概要 WG145 5th meeting November 14-15, 2012 at Houston

November 14 1300～1730, November 15 0900～1600

- 1) 議長挨拶；上田、Mike Harrison
- 2) 歓迎挨拶；Kevin Matakis
- 3) 前回会議意向の経過

上田から、報告書に記載する事項についてメンターの Van der Arjyan Weck に問い合わせ、以下の事項について確認したことを報告した。

- ① TOR に従い、WG145 の報告書においては船舶接岸速度に集中し、実測結果に基づいて、接岸速度の設計値について安全性または超過確率を考慮して提言する。信頼性設計法の導入については新たな WG に委ねる。
- ② その他の項目については確定値として扱うことについて説明する。付加質量については流体力学的手法を紹介し、水深/喫水 (h/d) の影響を指摘する。
- ③ 防舷材の特性の試験方案は防舷材システムの安全性上重要であるので、メン



バーの内の製造者の合意が得られれば WG145 報告書に取り入れたい。合意が得られなければ新たな WG に委ねる。

#### 4) 接岸速度の測定状況等

- ① ドイツ；ブレメルハーヘン港のデータについて Hein 氏から紹介があった。データが追加されている。また接岸速度データが修正され、20 cm/s 以上の接岸速度は除外されている。
- ② ドイツ；ハンブルグ港のデータについて Ollero 氏が説明した。
- ③ アメリカ；主要バースでの接岸速度調査が報告される予定であったが、一部紹介されるに留まった。また解析も進んでいない。
- ④ 日本；山瀬が、日本が測定した日本及び東南アジアの接岸速度データの解析結果を説明した。操船影響が支配的であることを指摘し。波、風、タグまたはスラスターの影響が小さいことを示した。
- ⑤ オランダ；ロッテルダム港で実施している接岸速度概要データに基づき、常時（95%信頼値）、異常時（供用期間中の超過確率 1%）とし、波、風、潮流、タグまたはスラスター使用、接岸速度計の設置など数項目について部分安全係数が提示された。ただし、確率論的根拠は示されていない。11 月 30 日までに案をメンバーに送付する。
- ⑥ スペイン；Trejo 氏が接岸実測の概要について説明した。
- ⑦ フランス；Demenet 氏が付加質量の計算結果について説明した。付加質量と接岸速度の関係、模型実験による評価、水深喫水比 (h/d) との関係についてコメントがあった。

- ⑧ イギリス；Mike が回転速度について旧来の式に基づいて接岸速度を算出した結果を提示し、接岸速度の実測値から検証できないかとの意見を述べた。
  - ⑨ イギリス；レーザー接岸速度計について Mike が資料を提示した。説明なし。
  - ⑩ Tom と Hein がロックの接岸速度のデータ収集を行う。
  - ⑪ 接岸速度データは FORMAT を決め、各国でそれに入力し共有する。FORMAT は 12 月 1 日までに送付される。
  - ⑫ 目次案について議論し、添付の目次案と担当者を確認した。
- 5) 防舷材の試験方案（改定）は新たな WG に委ねる。
- 6) **WG145 の活動期間**を 2013 年 3 月 31 日とし、2 月中に原稿を Mike 及び Ueda に送付し、両者が協議して取りまとめ、3 月末に MarCom に提出する。必要に応じて少人数の編集会議をブリュッセルで行う。期間延長について上田が Arjyan に連絡する。
- 7) **MarCom のコメント**を待って、最終 WG を行う。コメントの発信時日によって、6 月 26-27 日または 10 月 2-3 日東京とする。

## PIANC WG 145 Report Table of Contents

Introduction– **Mike & Ueda**

Members - **Kazuya**

Terms of Reference – **Mike & Ueda**

Energy Equation Explanation and importance of Velocity – **Mike & Ueda**

Data Collection Methodology and Definitions

- Berthing Velocity (note on rotational), Berth types (including locks), safety factors – **Liz, Chris, & Kevin**
- Overview of equipment for measuring velocity - **Mike**
- Added mass coefficient – **Pierre Francois & Ueda**

Berth Velocity Data Collection Results – Characteristic Velocity Tables (8 - 10 total right now) – **Juan → (Ueda, Christian, Alfred, Seigi, Ignacio)**

Application of Berthing Velocities in the Energy Equation – **Leon's** Table (to provide recommended factors of safety and type of berth selection, include note about locks in this section) - **Leon → (Ueda, Christian, Juan, Alfred, Seigi, Pierre Francois)**

Conclusion – **Mike & Ueda**

Recommendations for future studies (fender testing, continuous data collection, new WG 33, etc... – **Ueda & Mike**

References - **ALL**

### **Appendices:**

Tables of Berthing Velocity Data Collected – **Juan's Group**

Sources of Reference for Ship Data - **ALL**

Statistical Analysis & Probability of Failure Approach - **Ueda**

$C_m$  value calculation – **Pierre Francois, Ueda**

Rotational velocity discussion – **Mike & Ignacio**

### **Action Items:**

~~Analysis of collected data to determine weighting factors for Leon's table~~

Continue to collect data (US, Germany, Juan, Rotterdam)

Report Writing – **See above**

Sorting of US data and formatting similar to EU data - **Kevin**

Consolidation of data into a single spreadsheet, formatted in one way. – **Juan's Group**

~~How we present the data (eg spreadsheet, etc...)~~

Schedule with tasks listed in this document - **Kevin**

Potential Meeting Dates: June 26 & 27 or October 2 & 3 Tokyo.